

日本デューイ学会会報

2013年12月15日

目次

- I. 会長挨拶
- II. 第57回研究大会報告
総会報告
- III. 第57回研究大会を引き受けて
- IV. 追悼
- V. 事務局からのお知らせ

I. 会長挨拶

「主体的な学習」の時代とデューイ

日本デューイ学会
会長 早川 操

2013年9月21日と22日に新潟青陵大学において開催されました第57回研究大会は、多くの会員の参加によって盛会のうちに終えることができました。新潟の地での大会開催といえば、ご逝去された前会長の齋藤勉先生のご尽力により開催されました新潟大学での大会のことが思い出されます。大会前日の理事会の前には、齋藤前会長の夫人がお出でになり、理事の皆様にご挨拶をされました。あらためて齋藤前会長のご貢献に感謝申し上げるとともに、ご冥福をお祈り申し上げます。

佐渡島が彼方に見える美しい海岸沿いにある新潟青陵大学での大会も会員の皆様の心に長く残ることと思います。ご尽力いただきました、中野会員、岩崎会員、中村会員、伊藤会員に感謝申し上げます。

私事にわたり恐縮ですが、総会では会長再認の承認を賜りました。非力ではありますが皆様の協力を得まして、残りの期間を務め

させていただけたいと存じます。

今年の新潟での大会では、一日目にはシンポジウムとして「デューイ実験学校の現代的意義」について、また二日目の課題研究として「デューイとケア論」を巡って報告が行われました。それぞれのテーマについて、デューイの影響の広さを改めて感じさせられました。特に、実験室学校の実践については100年以上も前の実験ではありますが、今もなおわれわれの教育を考える際に新たな視点を提供してくれることを実感しました。

これまで、デューイの教育理論は、「大正自由教育」論争の時代、戦後の「問題解決学習」論争の時代、1960年代から70年代にかけての「教育の現代化」論争の時代、2000年前後の「ゆとり教育」論争の時代に特に注目されました。本学会では、この間、60年近くにわたって、デューイ哲学や教育学の意義を究明するため継続的に取り組んできました。最近では、再び（あるいは戦後では4度目になるのかもしれませんが）彼の理論と実践が注目されていると感じています。

その理由は、現在の大学教育改革で話題になっている「主体的な学習」の方法としてデューイの理論が一つの方向を示してくれると思われるからです。かつて問題解決学習は小学校段階で幅広く実践されましたが、現在は大学教育において problem-based learning や project-based learning として医学教育などで学生の自発的学習態度を習得させるための方法として開発されています。いつの時代もそうでしたが、学習方法に万能薬はありま

せん。この学習プロセスは、デュイが考察したように、問題状況の認識、問題の発見、解決策の探索とアイデアの洗練、仮説の検証、確定状況の確認と、基本的な局面は変わりません。このプロセスでは、直感的センス、事実的意味や概念的意味、想像的行動力、検証する判断力などが鍛えられます。これは問題解決や探究の直接的な学習成果でしょう。

それとともに、デュイは、問題解決学習や探究を「状況の変容」として定義しています。探究は、知性・想像力・情熱を強化するだけでなく、状況に応答し変容する力を鍛えます。この状況に対応する能力こそ、主体的自発的な学習態度の基礎となるものではないでしょうか。主体的な学習の習慣は、問題解決のプロセスをたえず経験することによって身につくものだと考えます。その意味でも、子どもや若者がこの方法に早い段階からなじむことが求められているといえましょう。

ショーンとアーギリスは、目の前の課題の解決と区別して、その背後にあるシステム・状況全体の変容という課題への取り組みを「ダブル・ループの学習」と呼びました。流動する不確定なグローバル社会では、個々の具体的な能力やスキルの学習とともに、さまざまな課題状況に「転移」できる「汎用性」のある能力の習得が求められています。新たな状況に転移できる汎用性の高い知識やスキルは、言うは易く学ぶは難し、ではないでしょうか。探究や問題解決学習に取り組むことで、その可能性を再び検討することが問われているように感じられます。

去る10月26日に、学会会長として長年にわたりご貢献いただき、新潟での大会でも著作選集のご紹介をさせていただきました峰島旭雄先生が永眠されました。学会の創設からこれまでご尽力いただきました峰島先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

II. 第57回研究大会報告

第57回研究大会は、去る9月21日(土)・9月22日(日)の両日、新潟青陵大学において開催されました。シンポジウム、課題研究、個人研究発表とともに充実したプログラムが組み立てられ、盛会の内に終了することができました。準備にあたっていただきました中野啓明準備委員会委員長、岩崎保之会員、中村恵子会員、伊藤敦美会員をはじめ新潟青陵大学の皆さまには、大変なご尽力をいただきました。ここに厚く御礼申し上げます。

以下に、総会で決定しました事項についてお知らせいたします。



新潟青陵大学



個人研究発表



課題研究



シンポジウム

総会報告

早川会長挨拶、中野準備委員会委員長挨拶に引き続き議長選出に入り、高田喜久司会員を議長に選出、次の議事及び報告事項が承認されました。

(1) 会務報告 (2012年度)

一、研究大会 第56回研究大会

2012年9月22日(土)・23日(日)

於：東洋大学 白山キャンパス

二、理事会 (2011年度～2012年度)

(一) 2011年度理事会

日時：2012年9月21日(金曜日)

17時～18時

於：東洋大学白山キャンパス6号館

出席者：早川会長、新井、市村、笠松、鈴木、

高頭、早坂、行安、米澤、小柳、滝沢、
中野、松下各理事、大森、佐藤各会
計監査

委任状：魚津、加賀、金丸、高頭、栗田、
杉浦、松浦、藤井各理事

オブザーバー出席：虎岩、岩瀬各幹事
・2011年度一般会計・特別会計決算およ
び会計監査、2012年度一般会計・特別会
計予算、研究奨励賞、紀要第54号編集
委員、総会における提案議題等について
審議

【以上、紀要第54号会報記載事項】

(二) 2012年度第1回常任理事会

日時：2013年5月11日（土曜日）

13時30分～15時15分

於：早稲田大学 国際会議場

出席者：早川会長、市村、笠松、高浦、
高頭、早坂、藤井、行安、米澤、
松下各理事

委任状：加賀、鈴木各理事

・第58回研究大会開催校、役員選挙、
研究奨励賞選考、「機関別認証評価に係
る専門委員」の推薦、「旅費補助に関する
規定」等について審議

(三) 2012年度第2回常任理事会

日時：2013年9月14日（土曜日）

13時30分～15時30分

於：早稲田大学 国際会議場

出席者：早川会長、鈴木、早坂、藤井、
行安、米澤、松下各理事

委任状：市村、加賀、笠松、高浦、
高頭各理事

・2012年度一般会計・特別会計決算案、
2013年度一般会計・特別会計予算案、役
員選挙結果、研究奨励賞、紀要第55号
編集委員、理事会および2013年度総会
における提案議題等について審議

(四) 2012年度第1回理事会

日時：2013年9月20日（金曜日）

17時～18時

於：新潟青陵大学 6号館 6301

出席者：早川会長、新井、加賀、笠松、
小柳、鈴木、高頭、高浦、滝沢、
中野、早坂、行安、米澤、松下
各理事

委任状：市村、魚津、栗田、杉浦、藤井、
松浦各理事、大森、佐藤各会計監査
オブザーバー参加：虎岩、岩瀬各幹事
・2012年度一般会計・特別会計決算およ
び会計監査、2013年度一般会計・特別会
計予算、研究奨励賞、紀要第55号編集委
員、総会における提案議題等について審
議

三、委員会

(一) 紀要第54号第1回編集委員会

日時：2012年9月23日（日曜日）

12時～13時

於：東洋大学 白山キャンパス 6号館

・委員長選出、応募要綱・執筆要綱、図書紹
介、編集作業工程等について審議

(二) 紀要第54号第2回編集委員会

日時：2013年3月30日（土曜日）

13時30分～16時30分

於：早稲田大学 国際会議場

・査読結果、図書紹介、印刷所の選定、英文
校閲の依頼等について審議

(三) 紀要第54号第3回編集委員会

日時：2013年6月8日（土曜日）

13時30分～15時15分

於：早稲田大学 教育学部（16号館）

・査読結果、研究倫理に関する記載、頁デザ
イン等について審議

三、会員動向

現会員数

313名（16定期購読機関を含む・2013年
11月30日現在）

四、刊行物

・会報発行（2012年12月15日）

・紀要第54号刊行 2013年10月
(株式会社ティー・エム・ピー)

(2) 紀要第54号編集委員会報告

小柳正司紀要第54号編集委員会委員長より、投稿論文は30編(投稿依頼を含む)、公募論文は26編の論文中20編を掲載した等の報告がありました。

(3) 2012年度会計報告及び会計監査結果報告

岩瀬会計担当幹事より、一般会計の2012年度決算、及び特別会計の2012年度決算について説明がありました。その後会計監査結果について、大森・佐藤会計監査から報告書が高田議長より紹介され、審議の結果、決算案が承認されました。

(4) 2013年度予算案

岩瀬会計担当幹事より、一般会計の2013年度予算、及び特別会計の2013年度予算についての説明があり、審議の結果、予算案が承認されました。

(5) 研究奨励賞選考結果について

新井保幸研究奨励賞選考委員会委員長より、紀要第53号を対象とした2012年度研究奨励賞選考について慎重に審議した結果、今回は該当者無しという結論に至った旨説明がありました。

(6) 役員選挙結果について

事務局より、2012年度役員選挙の実施と結果について、公示日2013年6月1日、投票締め切り2013年8月5日(消印有効)で実施し、開票は2013年8月7日名古屋大学にて、鬢櫛久美子、柳沼良太両会員の立ち会いの下、厳粛に行なわれ(有権者総数:197、投票数:65、無効投票数1)、その結果、本学会新役員は次の通りとなった旨報告がありました。

新役員 (2013年9月第57回研究大会後～2016年10月第60回研究大会終了)

顧問 峰島旭雄

会長 早川操

理事 新茂之 新井保幸 加賀裕郎
笠松幸一 金丸晃二 小柳正司 高浦
勝義 高頭直樹 滝沢和彦 佐藤隆之
中野啓明 西園芳信 早川操 早坂忠
博 藤井千春 松浦良充 松下晴彦
松下良平 行安茂 米澤正雄 (下線
は推薦理事)

会計監査 大森秀子 柳沼良太

(7) 紀要第55号編集委員について

早川会長より以下の会員に紀要第54号編集委員をお願いするとの報告がありました。

再任: 笠松幸一、桂直美、金丸晃二、
鬢櫛久美子、柳沼良太

新任: 新茂之、大森秀子、西園芳信、
藤井千春、米澤正雄

(8) 旅費補助の規定改正について

松下事務局長より、旅費補助の規定改正案について提案があり、審議の結果承認されました。

(旧 旅費補助に関する規定)

*委員会出席交通費について:

・片道5,000円以上10,000円未満の場合
往復旅費10,000円を支給

・片道10,000円を超える場合
往復旅費20,000円を支給

・その他の経費については、委員会、事務局の協議にゆだねる。

(新 旅費補助に関する規定)

*委員会出席交通費について:

・片道5,000円以上10,000円未満の場合
往復旅費10,000円を支給

・片道10,000円以上15,000円未満の場合
往復旅費20,000円を支給

・片道15,000円を超える場合
往復旅費30,000円を支給

・その他の経費については、委員会、事務局の協議にゆだねる。

(9) 第57回総会研究大会会場校について

早川会長より、第58回研究大会・総会の開

催を新潟青陵大学において、2014年10月4日、5日に開催することについて提案があり承認されました。

(なお、大会2日目(9月22日)課題研究の前に、会場校を代表して新茂之会員より挨拶がありました。)

Ⅲ. 第57回研究大会を振り返って

中野啓明(新潟青陵大学)

第57回研究大会(2013年9月21・22日、於、新潟青陵大学)は、大会参加者計87名、懇親会参加者64名を数え、盛会の内に無事終えることができました。遠路はるばる新潟の地までお越しいただきました会員の皆様に、まずは御礼を申し上げます。

今回の研究大会を開催するにあたって心がけましたことは、「新潟らしさ」をいかに打ち出すかということでした。

シンポジウムと課題研究のテーマの設定に際しては、提案者については是非とも学会員からお願いしたいと考え、過去の研究大会でのテーマと近年の学会での研究動向を一通り調べることから始めました。その上で、「デューイ実験学校の現代的意義—デューイ実験学校から学ぶ—」をシンポジウムのテーマに、「デューイとケア論」を課題研究のテーマといたしました。

大会初日のシンポジウムについては、新潟市教育委員会と新潟県教育委員会の後援及び新潟県生活科・総合的学習研究会の協賛のもと、本学会の研究成果の一端を広く新潟県内の教職員の方々に公開するために公開シンポジウムとし、新潟県内の教職員の方々にもご案内させていただきたくことといたしました。3連休の初日、2学期制の学校にあっては学期終了直前のご多用な時期にもかかわらず、県内外から5名の方からご参加いただき、フロアからの質疑応答の時間にも積極的に加わっていただきました。

課題研究については、司会のお一人である

林泰成会員に「指定討論的な役割」をお願いするという試みも実施してみました。質疑応答の時間には、2日目の午後の時間であるにもかかわらず多くの会員から残っていただき、活発な議論が行われました。

個人研究発表も充実したものとなりました。音楽関係、省察的实践論等では一つの分科会を設定できる程であったとともに、多彩で魅力的な分科会を組むことができました。

「デューイ研究者の協同機関」にして「同時に広くアングロ・アメリカ的な哲学・教育等に関心を持つ者の研究団体」としての研究大会に少しでも前進できたのでは、とも思いません。

皆様のおかげを持ちまして、「いつか新潟で大会を」とおっしゃっていた元会長の故・齋藤勉先生からいただいた学恩のほんの一部をお返しすることができたのではないかと思います。

開催校を代表し、すべての発表者、提案者、司会の皆様、そして遠路はるばる研究大会に参加し熱心に討議をいただいた会員の皆様に、心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

Ⅳ. 追悼

峰島旭雄先生を偲ぶ

市村 尚久(早稲田大学名誉教授)

日本デューイ学会の元会長であられた峰島旭雄先生は、去る十月十六日にご逝去になりました。ご訃報に接するや、ただ茫然自失。大きなおおきな存在を無くしてしまいました。デューイ哲学の体現者を、です。

早稲田大学での大先輩であられる先生には、私が同大学の専任になって以来40年近くに亘って、陰に陽にご指導をいただいて参りました。先生が所長をされていた大学の社会科学研究所や、日本デューイ学会の事務局がおかれていた先生の研究室ではもちろん、大

学構内通路上で幾度となくお目にかかる機会に恵まれました。

1978年(昭和53年10月)に、日本デューイ学会第22回研究大会が、先生の研究室もその一室をなす9号館(法商研究棟)の大会議室を中心に開かれました。その折の課題研究「デューイ派の教育思想」での発表の機会を与えてくださったのが先生でした。後日、その発表内容の学会誌掲載原稿が私の怠慢により大幅に遅れたため、それを先生宅に厚かましくも直接お届けせざるを得なくなりました。その年の秋深く廣度院をお訪ねしました。先生は作務衣に身を包み、日本手拭で頭をおおわれ、手には竹箒、落葉焚きをされておられました。私にはまさかの景色でした。大学で西洋哲学を講じておられるいま一人の先生のお姿であろうとは、しばし思いも寄らぬものでした。そのとき先生は、本来僧籍にいらしたことをはじめて知りました。

ご恵贈いただいた『峰島旭雄選集』(全三巻)の「はしがき」で、先生は「私の人生は学究生活と法務生活の二つの人生を練り合わせたものあった」と述懐されています。改めて、デューイ一元論哲学の体現者は、峰島先生を措いてほかに見当たらないとの感銘を深めました。

峰島先生は日本デューイ学会長(1989年から98年までの三期9年間)就任の前は、元学会長大浦猛先生の許で、1980年代十年近くに亘って事務局長をされていました。私にはその時の峰島先生の大浦会長に仕えられているお姿が、いまなお鮮明に蘇って参ります。あえて一言で述べるのが許されるなら、「淡々」として。先生は会長に就任されても相変わらぬお姿で「淡々」として。

先生の後任として会長職をお引き受けすることになりました。私は学会運営上のことで、どれほど多く先生にご迷惑をおかけしたことが、枚挙にいとまがありません。その都度要

領を得ぬ質問に、その多くは電話で、あるときははがきで、いつも丁寧に応えてくださいました。はがきでの先生特有の筆致の解読にはいささか骨が折れましたが、先生から学んだこととはいうと、何事も「前向き」に解釈し進みゆくこと、二歩さがって一歩前進するということでした。

先生より与えられしことのみ多く、何ひとつ報いることのできぬまま、先生のご逝去に接し悔まれてなりません。先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます。ありがとうございました。

合掌

V. 事務局からのお知らせ

(1) 会員の動静 (2013年12月1日現在)

- 1) 現会員数 316名(定期購読機関等を含む)
- 2) 新入会員 (紀要第54号記載以降)

岩田弘志(南阿蘇村立南阿蘇西小学校)、西園政史(聖徳大学附属女子中学校・高等学校)

(2) 紀要第54号訂正事項

その他、紀要の訂正事項について、お気づきの点がございましたら、事務局までご一報ください。

(3) 寄贈図書(紀要第54号掲載以降)

苫野一徳著『勉強するのは何のため?—僕らの「答え」の作り方』(日本評論社2013年) 高屋景一著 *Jerome Bruner Developing the sense of the possible*, Springer, 2013. 峰島旭雄著『峰島旭雄選集1 西洋哲学と比較思想』『峰島旭雄選集2 日本近代思想の展開』『峰島旭雄選集3 比較宗教哲学と仏教』(北樹出版2013年)

※会員の皆様の業績をお知らせ下さい(著作、論文、翻訳等)。紀要、会報等でご紹介させていただきます。

(4) 『紀要』頒価

*会員の皆様におかれましては、郵送料は別途お願いいたします。

号数	1-10号	12号	17-18号	24-25号	26-37号
会員直接購入	800	800	700	1,500	1,500
非会員直接購入	1,000	1,000	800	1,800	2,000
号数	38-47号	48号	49号-		
会員直接購入	2,000	3,000	2,000		
非会員直接購入	2,500	3,500	2,500		

【日本デュエイ学会 会報第1号】200円

【在庫切れ】紀要第11号、13号、14号、15号、
16号、19号、20号、21号、22号、23号

※ 在庫切れの号に関して、ご希望の方にはコピーをお送りいたします（料金実費）。

(5) 会費納入のお願い

本年度(会計年度は9月1日より)の会費未納の会員の皆様には、同封いたしました「振込み用紙」にて、会費の納入をお願いいたします。 会費は年7,000円となっております(会則、第2条)。何卒、ご協力の程、宜しくお願いいたします。

2013年度の会費まで納入されている会員の皆様には、「会費納入のご案内」他は同封されておりません。

なお、ご不明な点がございましたら、事務局までお問い合わせください。

※ 以下の会員の住所が不明となっております。ご存知の方は事務局までお知らせください。(敬称略)

飯谷敏子、石田正人、今井康晴、岩本一夫、内田満、王頌、大崎和彦、岡本聡、鬼木宣尚、鏡晃、川合康文、栗本孝弘、候ビヨウ、城田敏郎、陣野宏史、瀬戸郁子、高橋陽一郎、武田正浩、谷秀雄、千葉雄樹、鄭健泳、寺分典彦、殿塚貴史、中島佳明、中津川順子、仁尾正人、長谷川豊、服部惣一、藤本和久、松本恭子、梁貞模、楊鋳

(6) 事務局のホームページについて

日本デュエイ学会事務局のホーム・ページが開設されております。研究大会案内をはじめ会員の皆様への情報の提供に努めてまいります。ご覧ください。

<http://johndewey.web.fc2.com/index.html>
(htmlのlは、アルファベット小文字のエルです。)

また事務局のメールアドレスは次のとおりです。deweysociety@hotmail.com お問い合わせ、ご連絡、紀要の注文、学会へのご要望等にお使い下さい。なお、ご住所・ご所属等の変更におきましてもこのアドレスまで是非、ご一報下さい。

(7) 訃報

本学会顧問、元会長として、本学会の発展に長年にわたりご尽力賜りました、峰島旭雄先生におかれましては、2013年10月16日にご逝去されました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

発行 日本デューイ学会
発行者 早川 操
発行日 2013年12月

〒464-8601 名古屋市千種区不老町
名古屋大学大学院教育発達科学研究科
松下研究室内

TEL&FAX 052-789-2616

mail : deweysociety@hotmail.com

郵便払込口座 00120-8-15045

口座名義 日本デューイ学会